

腹腔内脂肪組織に重度の転移を認めた

直腸腺癌の犬の1例

○浅枝英希, 小出和欣, 小出由紀子, 矢吹淳 (小出動物病院・岡山県)

【はじめに】

犬の腸管腫瘍は比較的稀といわれ, その多くが大腸, 特に結腸遠位1/3, 直腸に発生する。犬の直腸には腺腫様ポリープの発生が多く, 悪性腫瘍では腺癌の発生が多いとされている。直腸腺癌は完全な外科切除によって治癒するが, 局所浸潤, リンパ節への転移, および骨盤腔内に位置するため, 大部分は完全に切除できずに予後は悪い。

今回, 腹腔内脂肪組織や内腸骨リンパ節, 卵巣に転移を認めた非常に浸潤性の強い直腸腺癌の1例に遭遇し臨床経過を観察する機会が得られたのでその概要を報告する。

【症例】

ウエルシュ・コーギー・ペンブロック, 雌, 8歳7カ月齢

【主訴と現病歴】

2008年末より下痢が続き, 2009年3月にしぶり, 血便を主訴に他院を受診。直腸検査で肛門より5~6cmの部位に狭窄, X線検査で骨盤腔入口にmass様陰影を認め, 直腸腫瘍を疑い当院を紹介受診した。

【身体検査所見】

体重11.65kg (BCS2.5), 体温37.8°C。皮膚脱水, 可視粘膜に重度の黄疸を認めた。

【初診時臨床検査所見】

◎血液検査

CBCでは赤血球, Hb, PCVの軽度上昇, 黄疸指数の重度上昇, 血液塗抹標本でリンパ球, 単球, 好酸球の低下のストレスパターンを認め, HPT, APTTは延長していた(表1)。

血液化学検査ではTP, TBil, DBil, 肝酵素, TCho, CK, の上昇, BUN, Kの低下を認めた(表2)。

◎尿検査

尿は山吹色で混濁しており, pH7.0, 比重<1.005, ビルルビン4+, 沈渣にて上皮細胞が認められた。

◎腹部単純X線検査

消化管内のガス貯留, 石灰化を伴う胆泥の貯留(図1矢印), 胃後方の不透過性陰影を認めた。

◎腹部超音波検査

胆嚢, 胆管の拡張と胆嚢内胆泥貯留(図2), 直腸壁の肥厚, 胃後方の腫瘍を認めた。

【診断・治療および経過】

以上より直腸腫瘍, 肝外胆管閉塞, 胃後方の腹腔内腫瘍は脂肪織炎を疑い, 手術を前提に入院とし, 同日, CT撮影, 内視鏡検査, 胆嚢穿刺による胆汁抜去を実施した。CT検査で, 乳腺腫瘍, 卵巣の軽度腫大, 胃後方の腫瘍(図4, 5矢印), 胆泥貯留, 直腸壁肥厚, リンパ節の腫大(図4, 図5矢頭)を認めた。肺への転移所見は認められなかった。内視鏡検査で, 肛門から約5cmの部位に全周にわたる腸管狭窄を認め(図3), 直腸生検を行った。次いで胆嚢減圧のため, エコーガイド下で16G静脈留置針を用い, 胆汁を55ml抜去した。病理組織診断により, 腸管腫瘍は直腸腺癌であった。胆汁培養で細菌の発育は認められなかった。第2病日にも胆汁抜去を行い, 第6病日から利胆剤の経口投与を行った。第14病日の血液検査では, 肝酵素の軽度~中等度の上昇は認められるものの, 黄疸はほぼ消失し, 全身麻酔下にて, 手術を行った。手術はまず直腸引き抜き術により直腸切除を試みた。しかし, 切除可能領域より頭側にも硬結を触知し, 引き抜き術で対応困難と判断し, 腹部正中切開により開腹術を実施した。開腹時所見として, 大網など腹腔内全体に及ぶ脂肪組織の硬結化, 胆嚢管と総胆管の拡張を認めた(図6, 7)。まず, 超音波凝固切開装置により, 腫瘍化した大網(図8), 結腸脂肪を切除し, 肝生検, 卵巣子宮摘出, 内腸骨リンパ節の郭清を行い, 十分に腹腔内を洗浄した後, 閉腹し, 両側の第3~5乳腺切除も行った。病理組織診断で, 乳腺は良性的混合腫瘍, 大網, 結腸脂肪, リンパ節, 卵巣は直腸腺癌の転移であった。その後は, 飼い主が化学療法による延命は希望せず, 第23病日に抗生物質, 利胆剤, 食欲増進剤を処方し, 退院とした。その後, 食欲は不定で, 徐々に削痩していき, 第97病日に自宅にて斃死した。

犬の結腸直腸腺癌は, 狭窄を起こす輪状腫瘍まで進行した症例の予後は悪く, 早期の完全外科摘出が最重要である。進行した症例では, 腹腔内への播種やリンパ節転移が主に認められ, 本症例のように複雑な病態をとることもある。より早期に診断を行うためにも直腸検査を行い, 直腸腫瘍を疑う症例であれば, 内視鏡検査による早期診断が重要である。

表1 初診時血液一般検査所見

RBC($\times 10^6/\mu l$)	9.06	WBC(/ul)	9900
Hb(g/dl)	22.1	Band-N	0
PCV(%)	60	Seg-N	9108
MCV(fl)	64.8	Lym	693
MCH(pg)	24.4	Mon	99
MCHC(g/dl)	37.6	Eos	0
Icterus Index	>50	Plat($\times 10^3/ul$)	42.6
Hemolysis	-	HPT(sec)	18.4
Mf&F-Ag	-	APTT(sec)	37.8

表2 初診時血液化学検査所見

TP (g/dl)	7.6	CK (U/l)	175
Alb (g/dl)	3.9	BUN (mg/dl)	6.7
TBil (mg/dl)	11.2	Cre (mg/dl)	0.6
DBil (mg/dl)	8.3	Ca (mg/dl)	10.3
AST (U/l)	790	P (mg/dl)	3.7
ALT (U/l)	5836	Fe (ug/dl)	216
ALP (U/l)	9098	TIBC (ug/dl)	362
GGT (U/l)	153	Na (mmol/l)	149
NH ₃ (mg/dl)	34	K (mmol/l)	2.8
Glu (mg/dl)	90	Cl (mmol/l)	103
TCho (mg/dl)	646	pH	7.451
TG (mg/dl)	100	HCO ₃ (mmol/l)	20.4
AFP (ng/ml)	78	Cortisol(ug/dl)	4.70
Amy (U/l)	355	T4 (ug/dl)	2.89
Lipase (U/l)	37	fT4(pmol/l)	7.12

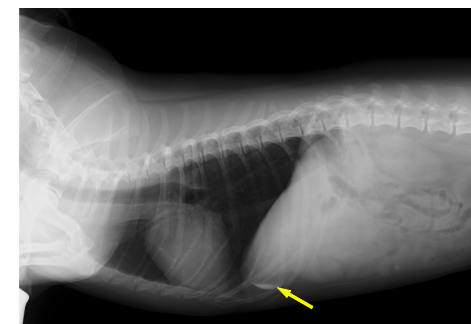


図1 初診時単純X線写真(RL像)

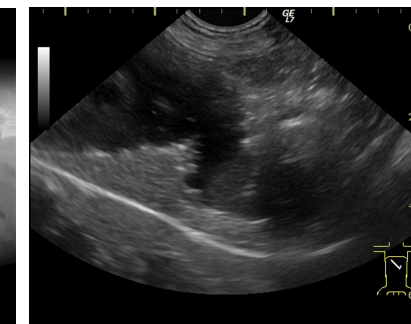


図2 初診時腹部超音波所見(胆嚢)

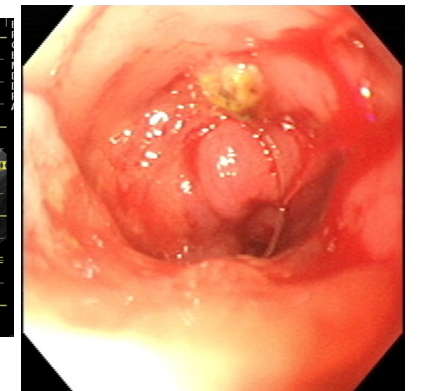


図3 内視鏡検査所見

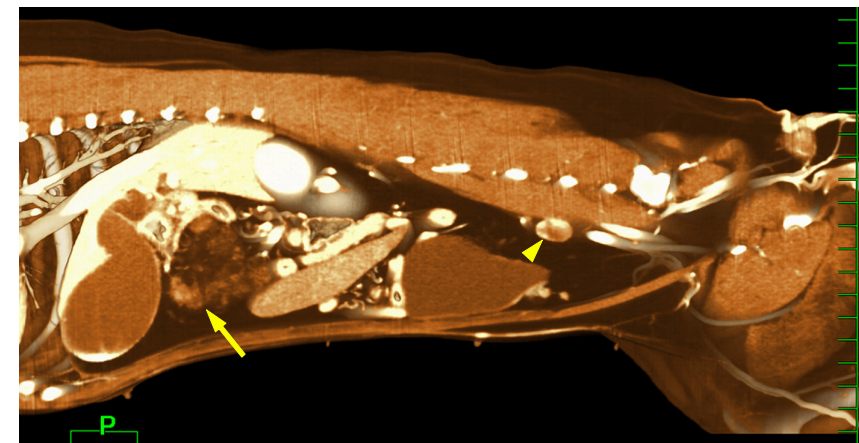


図4 3D-CT所見(サジタル像)

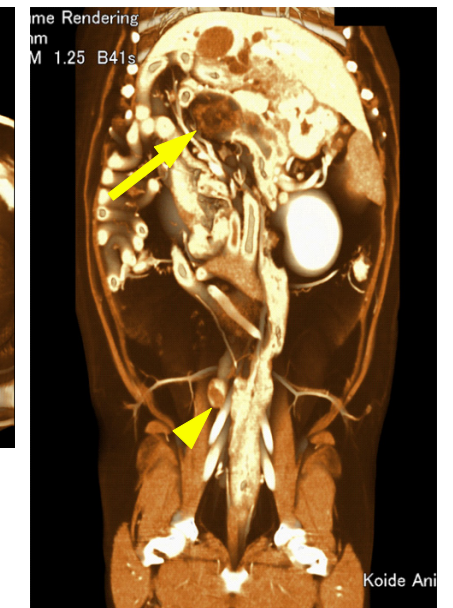


図5 3D-CT所見(コロナル像)

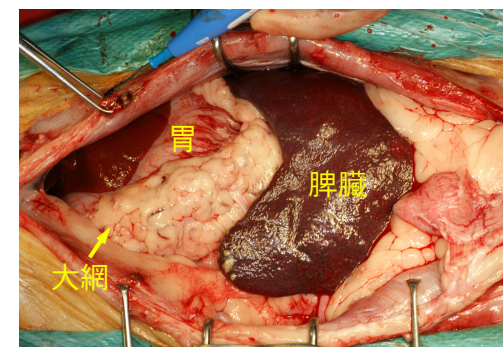


図6 開腹時所見

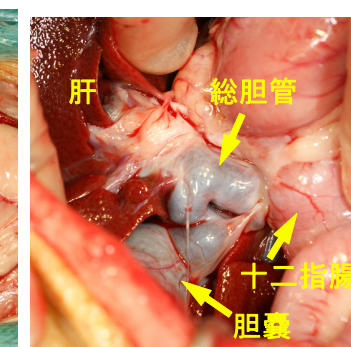


図7 開腹時所見

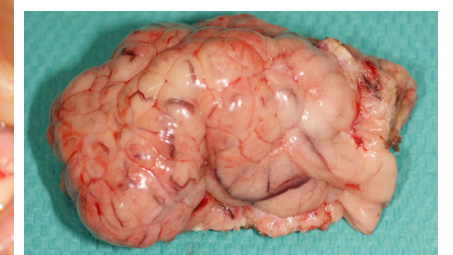


図8 腫瘍化した大網